厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
精神保健・福祉に関するエビデンスのプラットフォーム構築及び
精神科長期入院患者の退院促進後の予後に関する検討のための研究
分担研究報告書

精神保健医療福祉システムのステークホルダーが求める エビデンスの提示方法に関する検討

研究分担者：藤井千代　（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所）
研究協力者：五十嵐百花、川口敬之、山口創生（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所）、板垣貴志（株式会社アクセライト）

要旨

本研究の目的は、国内の精神保健福祉システムのステークホルダーが効果的な実践について情報収集するための新しい WEB ページにおいて、どのような表現や形式での情報発信が望まれているか探索することであった。

昨年度の実施したステークホルダーへのグループインタビューを踏まえ、今年度は Web サイト「こころとくらし-精神障害当事者の地域生活にかかわる研究結果紹介サイト（略称：ここくら）」の作成に着手した。

サイトのストラクチャー上の工夫点として、支援技法の名前や内容をある程度知っている支援者を想定した入り口と、治療やケアに対する関心事や疑問からサイトを閲覧する当事者や家族を想定した入り口を設け、それぞれに必要な情報に早く正確に誘導できる構造を検討した。

サイトのコンテンツとしては、独自に実施する長期入院の予後等に関するシステマティックレビューに加えて、英国の Cochrane collaboration が運営する Cochrane library に掲載されている Cochrane review の中から、重症精神障害（統合失調症、双極性障害、大うつ病）を対象とした地域生活支援に関する心理社会的支援に関するものを選択し、支援技法や Cochrane review の内容について平易に説明するテキストや図表を作成した。また、研究にまつわる概念や専門用語についても説明するテキストを作成した。研究チームでは当初、支援技法の紹介として Cochrane review の PLS 和訳リンクのみを提示することを考えていた。しかし、支援者等からわかりづらいとの意見が多数であった。このため、支援技法を平易に説明するイラストとテキストを独自に作成することとした。

専門用語やカタカナを極力使わずに概念や支援技法の内容を表現することは困難な作業であったが、研究者にとっての「当たり前」がいかに通用しないかという学びになった。こうした作業を通じて、当初の構想と比べて格段にユーザーフレンドリーなサイトになったと考えている。次年度はサイトにアンケートを実装し、閲覧者からのフィードバックを集め、コンテンツの改善につなげる予定である。

A.研究の背景と目的

本研究の目的は、国内の精神保健福祉システムのステークホルダーが効果的な実践について情報収集するための新しい WEB

ページにおいてどのような表現や形式での情報発信が望まれているか探索することであった。

昨年度は当事者、家族、支援者、行政職員、研究者の属性をもつ者、合計 35 名にグループインタビューを行った。この結果、エビデンスの提示方法について、最初にタイトル、抄録、イラストや図で支援の効果の程度を簡単に示してほしい、その上で研究の概要についてできるだけ数値を使わずに説明してほしい、という 2 段階での提示が希望された。

今年度はこうした意見を反映し、Web サイト「こころとくらし-精神障害当事者の地域生活にかかわる研究結果紹介サイト-Evidence based Information site on community lives for people with mental illness（略称：ここくら）」の作成に着手した。

なお、本分担研究班は山口分担研究班と合同で作業を進めた。WEB サイトのコンテンツについては、同分担研究班の報告書も合わせて参照されたい。

B.方法

１．Web サイトのストラクチャーの検討

立場の異なる閲覧者が想定されるため、トップページに「支援技法から探す」（支援者や研究者の利用を想定）、「疑問や関心事から探す」（当事者/家族や行政職員の利用を想定）の 2 つの入り口ボタンを用意した。

「支援技法から探す」のボタンを押下すると、支援技法名があいうえお順に表示され、それぞれの支援技法名をクリックすると、説明ページに遷移する仕様とした（資料 3、4）。

「疑問や関心事から探す」のボタンは、押下するとまず疑問（「入院は短いほうがいいのか？」など）や関心事（「再発・再入院の予防」など）の一覧に遷移し、該当する疑問や関心事をクリックすると、関連する支援技法のリストが表示される仕様とした（資料 5）。サイトのトップページと構造の模式図について資料 1、2 に示す。

２．Web サイトのコンテンツの作成

1）取り上げる疑問、支援技法の選択

疑問について、本研究課題では「精神科長期入院患者の退院促進後の予後」について明らかにすることが公募の要件となっていたため、このリサーチクエスチョンについては、独自にシステマティックレビューを実施している（詳細は中西分担研究班より報告）。そのほか、精神保健医療福祉のステークホルダーにとって関心が高いと思われるリサーチクエスチョンを検討した結果、「入院期間の長短と予後の関係」「就労と予後の関係」が挙がった。前者については後述する Cochrane review としてすでに出版されていたため、これを紹介することとした。

支援技法について、英国の Cochrane collaboration が運営する Cochrane library に掲載されている Cochrane review の中から重症精神障害（統合失調症、双極性障害、大うつ病）を対象とした地域生活支援に関する心理社会的支援をハンドサーチによって選択した。

2）コンテンツページの作成

昨年度のグループインタビューで得られた意見を踏まえ、選択した支援技法について解説するため、各支援技法に関連するイラストと概要を平易に記述したページを独自に作成した。

また、より詳細に知りたい閲覧者のために、Cochrane review の一部である Plain language summary（一般向けの平易な抄録：PLS）の和訳を行い、内容の説明と Cochrane library へのリンクを掲載することとした。

3）専門用語/概念の説明ページ

支援の効果を知るために最低限必要と思われる専門用語や概念について説明するページを設けた（資料 6）。

4）そのほかの工夫

以下のサイトにリンク設定を依頼し、了承を得た。

・「統合医療」情報発信サイト（厚生労働省 eJIM）

補完代替医療に関するエビデンスを発信しているサイトであり、ヘルスケアリテラシーに関する資料を豊富に掲載している。

・地域精神保健医療福祉資源分析データベース（ReMHRAD）

日本の都道府県・二次医療圏・市区町村などの区分別の精神保健福祉資料における指標の状況、精神科病院に入院している方の状況、訪問看護ステーション・障害者総合支援法の各福祉サービスの事業所の多寡、各社会資源の位置情報等について表示するデータベースである。

・WAM NET（ワムネット）

国内の制度や障害福祉制度の説明、サービスを提供する事業所の所在などを掲載している。

いずれも本研究課題で作成する「ここくら」サイトには掲載されていないが、閲覧が想定される精神保健医療福祉サービスの当事者、その家族、支援者、行政職員、研究者にとってニーズのある情報を扱っているサイトである。

上述 1）から 3）の詳細については、山口分担研究班の報告書にて記述する。

C.結果／進捗

現在、2021 年 7 月上旬に公開すべく、コンテンツを WEB サイトに掲載する作業を行っている。

D.考察

本プロジェクトの開始時、研究チームでは支援技法の紹介として Cochrane review の PLS 和訳リンクのみを提示することを考えていた。しかし、試みに地域生活支援に携わる支援者や普段、精神保健医療福祉になじみのない人に PLS 和訳について感想を求めたところ、わかりづらいとの意見が多数であった。このため支援技法を平易に説明するイラストとテキストを独自に作成することとした。

ふだん研究になじみのない人のもつ専門用語やカタカナに対する抵抗感は研究チームの想像以上であった。これらを極力使わずに概念や支援技法の内容を表現することは困難な作業であったが、研究者にとっての「当たり前」がいかに通用しないかという学びになった。こうした作業を通じて、当初の構想と比べて格段にユーザーフレンドリーなサイトになったと考えている。次年度はサイトにアンケートを実装し、閲覧者からのフィードバックを集め、コンテンツの改善につなげる予定である。

E.健康危険情報

なし

F.研究発表

1.論文発表

なし

2.学会発表

佐藤さやか・五十嵐百花・川口敬之・山口創生　こころとくらし（略称ここくら）WEB サイトのご紹介．TOGETHER ＆ ここくら 研究成果報告会　2021 年 3 月 20 日．

G. 知的財産権の出願・登録状況

1.特許取得

なし

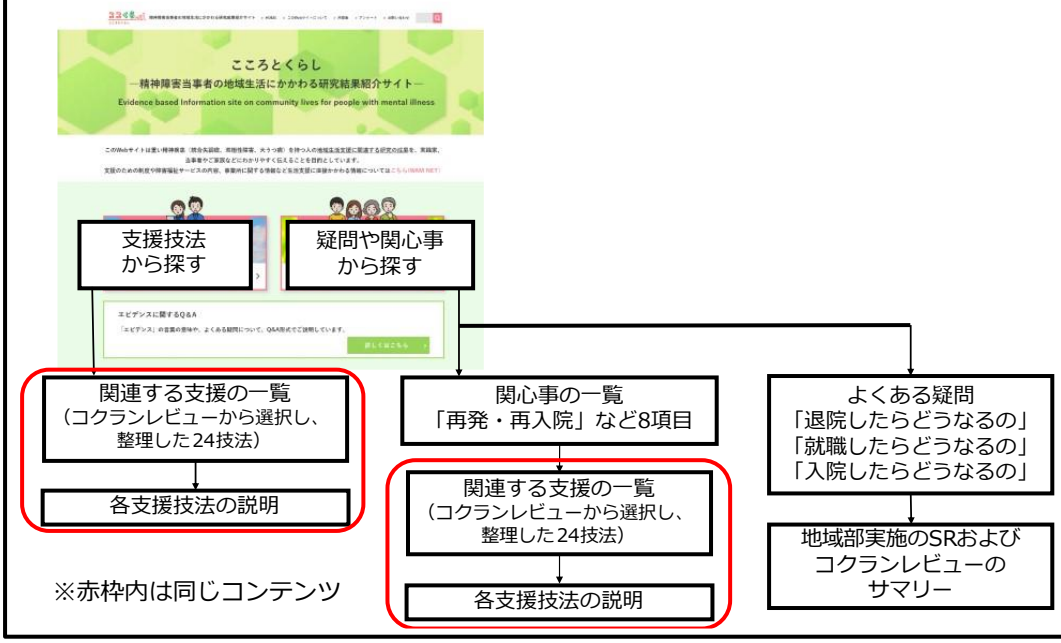
2.実用新案登録

なし

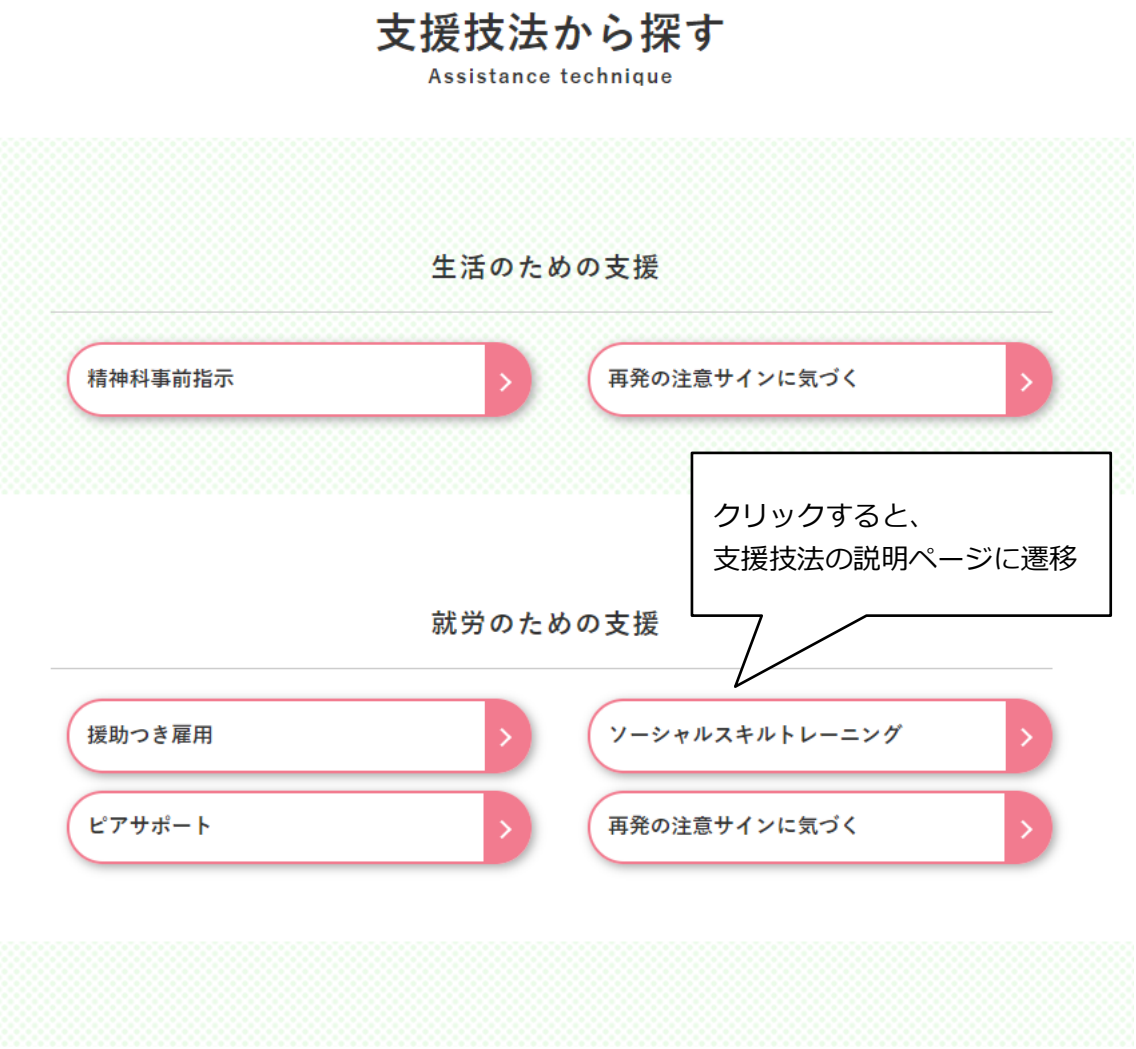
3.その他

なし

資料１　こころとくらし（ここくら）トップページ



資料２　ここくらサイトの構造の模式図



資料３　支援技法の一覧

（公開されるサイトは支援技法があいうえお順に並ぶ予定）

再発・入院の予防

社会生活技能訓練（Social skills training: SST）

Social Skills Training

独自に作成した
イラストと説明の
テキスト

社会生活技能訓練（SST）とは？

社会生活技能訓練（ソーシャルスキルトレーニング、SST）とは、人との上手な接し方や自分の気持ちの伝え方などの社会的なスキルを習得するためのトレーニングです。一般的には5～8人程度の少人数のグループで行われます。日常生活の中で起こりそうな人と関わる場面を想定し、指導者がお手本を見せたり、参加者が相手役に対して実際に練習してみたりすることで、対人関係で生じる困難を減らすことを目指します。他にも、疾患や薬について学び、適切に症状に対処したり薬を飲んだりできるようになるための心理教育プログラムが一緒に行われることがあります。

1

世界で行われた研究のまとめ
（コクランレビュー）
統合失調症に対するソーシャルスキルプログラム

クリックすると、Cochrane review の説明へ遷移

資料４　支援技法の説明ページの一例（ソーシャルスキルトレーニング：SST）

資料５　疑問や関心事の一覧

エビデンスに関するQ＆A

- 「エビデンス」とは何ですか?
- どうして「エビデンス」が必要とされるようになったのですか？
- なぜ「エビデンス」に基づいた支援をしなくてはいけないのですか？
- 量的研究で有意差がない支援は、「エビデンス」のある実践ではないのですか？
- 事例検討や質的研究だけでも十分ではないですか？
- いままでの支援方法でも十分にうまくいっていましたが、「エビデンス」のある支援に変えなければいけませんか？
- 「エビデンス」に関する説明が難しいです

Q 「エビデンス」とは何ですか？

A 医療や対人サービスの文脈では、エビデンスは科学的な根拠とも訳され、「ある治療方法や支援方法が良いといえる根拠」と定義することができます。ここでいう「良い」とは、科学的な評価の結果、効果が期待できること、安全であることを指しています。エビデンスは、実際にサービスを利用している当事者が参加する研究によって作られています。

国立国語研究所：エビデンス evidence.
URL:https://www2.ninjal.ac.jp/byoin/teian/ruikeibetu/teiango/teiango-ruikei-a/evidence.html

資料６　専門用語/概念の説明の一例（エビデンスについて）